

私たちのやり方で、羽ばたかせてほしい

山本 和奈

「おかしいことに対して誰もがおかしいと言える社会に」という思いを込めて始めた団体が、(一社)Voice Up Japanだ。2019年1月、「ヤレル女子大学生ランキング」という週刊誌の企画に対する署名活動がきっかけとなって立ち上げた。元々、団体を始めようと思っていたわけではなかったが、常に社会に対するもどかしさは私の中に存在していた。だからこそ、仲間や活動を応援してくれる人に出会えたことはとても心強かった。

活動を始めた当時は、あらゆる「モヤモヤ」に対して、片っぱしから怒っていた。「こういうふうには発言すると、聞いてもらえるよ」、「こういう主張は、他の団体から批判を浴びるかも知れないから」と“先輩”方や応援してくれる人からのアドバイスが増えた。

ある日から、SNSに書き出した文章を、パソコンの削除ボタンで一文字ずつ消していく自分がいた。「これは怒って聞こえる」、「言い方がきついつて指摘されたしな」と自分自身の言葉をどんどん編集し始めていた。「こんなことに抗議したら何か言われるかな」、「この団体は指摘しない方がいいよね」と、自分の声を自分で消していくようになった。気づいたら、自分の声は、他の人の声を代弁する媒体になっていた。気づいたら、自分の声は、秩序を乱さないことしか言えなくなっていた。気づいたら、自分の声は、自分のものではなくなっていた。

「おかしい」と言える社会を目指していた自分の声は、自分の周りの「おかしい」ことに声を上げられなくなっていた。「若い女性」とすると社会からは「女性」という理由で見下され、さらには「若い」という理由で「物を知らない」扱いをされる。「教えてあげる」という善意が、私たちの声を塞いでいる可能性がある。応援してくれるという声かけは、ものすごく励みになる。だから、「女の子だから知らないだろう」、「わからないだろう」と思う気持ちを信頼に変えてほしい。「できるだろう」と後押ししてほしい。失敗してもいいから、私たちを信じて、私たちのやり方で、羽ばたかせてほしい。



PROFILE

やまもとかずな：ジェンダー、セクシュアリティ、宗教や国籍関係なく誰もが平等な権利を有する社会、そして誰もが声を上げられる社会を目指し活動する(一社)Voice Up Japan 代表理事。南米チリにおけるトークン化されたデジタルアセットを発行するプラットフォームを運営するWAYVX 代表取締役。最近ではモビリティ業界におけるVC投資や、サステナブルなB2Cブランド「Tidal Green」の開発なども行う。